

平成27年度
教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書
(平成27年4月～平成28年3月)

点検評価委員会

平成28年10月28日

点検評価委員

信原英治
佐藤潤一郎
本多一夫
古城英美枝

平成28年10月
国東市教育委員会

目 次

1 目的	1
2 点検・評価項目について	1
3 評価シートの説明	1
4 平成27年度の執行状況と評価・課題	
II-1 国東で「子育てをしたい・させたい」と思う体制を確立します。【子ども・子育て】	
(1) 子ども・子育て支援制度の円滑な推進	2
(2) 幼児教育の効果的な推進	2
(3) 保育に係る事業や子育て支援に係る事業の推進	2
II-2 地域や保護者と対話しながら良好な教育環境を整備します。【教育環境整備】	
(1) 市内教育環境整備の計画的な推進	3
II-3 連携協働による「確かな学力」「豊かな心」「豊かな体」を育む学校教育を推進します。【学校教育】	
(1) 学校の組織力や教育力向上の推進	4
(2) 学力向上に向けた各種施策の推進	4
(3) 豊かな心の育成や体力向上のための施策の推進	5
II-4 社会教育活動により地域人材を育成し、学びの空間を創造します。【社会教育】	
(1) 社会教育（生涯学習）事業の計画的な推進	5
(2) 地域ブランド力の指針となる図書館事業の充実	11
II-5 社会体育を多方面に活用し、スポーツ政策を計画的に推進します。【社会体育】	
(1) 社会体育事業の計画的な推進	12
II-6 国東の新たな可能性としての文化・芸術政策を推進します。【文化・芸術】	
(1) 文化政策の計画的な推進	13
(2) 芸術政策の計画的な推進	14

II-7 悠久の歴史のまら国東に相応しい文化財政策を推進します。【文化財】	
(1) 文化財保存・活用事業の計画的な推進	15
(2) 文化財関連施設の適正な管理・運営施策の推進	16
I-8 人権啓発と教育活動を実践し、人間尊重社会の実現を目指します。【人権尊重】	
(1) 人権啓発活動に関する取り組みの充実	17
(2) 人権教育活動に関する取り組みの充実	19
5 点検及び評価の結果に対する総括的意見	21

平成27年度 教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書

1 目的

平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、平成20年4月に施行されたことにより、教育委員会は毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況を自ら点検・評価することが義務付けられました。

教育委員会は、都道府県及び市町村等に置かれる行政委員会の1つで、合議制の執行機関です。事務の点検・評価により、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすことを目的とします。

2 点検・評価項目について

国東市総合計画は、基本構想、基本計画の2つの計画で構成されており、このうち基本計画は、基本構想に掲げられる本市の将来像実現に向けて、基礎的公共サービスを提供を前提とした上で、5つの分野（「医療福祉・防災・人権分野」、「子育て・教育・文化財分野」、「都市計画・生活基盤分野」、「産業・観光・定住分野」、「行政経営分野」）ごとにそれぞれを施策として具体化し、39の主要施策により市役所の役割を明らかにするものです。

平成27年度の国東市教育委員会の権限に属する行政事務について、この国東市総合計画の教育委員会部局の基本計画に基づいて、事務事業ごとの点検・評価を行います。

I 医療福祉・防災・人権分野「安全・安心をつくる」

8 人権啓発と教育活動の実践し、人間尊重社会の実現を目指します。【人権尊重】

II 子育て・教育・文化財分野「未来を担う人・文化をつくる」

- 1 国東で「子育てをしたい・させたい」と思う体制を確立します。【子ども・子育て】
- 2 地域や保護者と対話しながら良好な教育環境を整備します。【教育環境整備】
- 3 連携協働による「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む学校教育を推進します。【学校教育】
- 4 社会教育活動により地域人材を育成し、学びの空間を創造します。【社会教育】
- 5 社会体育を多方面に活用し、スポーツ政策を計画的に推進します。【社会体育】
- 6 国東の新たな可能性としての文化・芸術政策を推進します。【文化・芸術】
- 7 悠久の歴史のまち国東に相応しい文化財政策を推進します。【文化財】

3 評価シートの説明

平成27年度の事務事業について、「成果指標」、「具体的取組」、「総合評価」（各担当課での評価）、「評価と課題で構成されています。取組みの評価結果については、4段階評価とする。

- A・・・事業目的を達成しており、必要性及び有効性が高い。
- B・・・事業目的を概ね達成しており、僅かな課題が残っている。
- C・・・事業目的達成に課題が多く、施策が停滞している。
- D・・・事業目的に対する期待された効果が得られない。

4 平成27年度の執行状況の点検と評価・課題

【1-1】 国東で「子育てをしたい・させたい」と思う体制を確立します。【子ども・子育て】

施策別主要な事業	成果指標	平成27年度具体的取組	総合評価	評価と課題
(1) 子ども・子育て支援制度の円滑な推進 ○子ども・子育ての総合的な政策を国・県と連携して推進します。 ①国東市子ども・子育て支援事業計画の策定 ②子ども・子育て計画の策定に向けた状況・需要の効果的な調査 ③子ども・子育て計画策定から事業実施に向けた庁内体制の整備 ④子ども・子育て支援新制度の広報・周知活動の促進				福祉課
(2) 幼児教育の効果的な推進 ○幼児教育を推進し、円滑な就学環境を整備します。 ①国東市幼児教育振興プログラムの点検・評価の推進 ②市教委主催の幼稚園教諭等研修会の充実 ③くさき地区教育研究会幼稚園部会の充実 ④小学校入学に向けた国東市幼保小連携協議会の充実	100% 年1回 年4回 年3回以上	・研修で点検・評価を行った。 ・年1回の実施(5月29日) ・年4回の実施(研究会を含む) ・小学校プログラムで連絡会や交流活動を実施。	A A A A	・今後も続けていく。 ・今後も充実させ、続けていく。 ・今後も続けていく。 ・今後も続けていく。
(3) 保育に係る事業や子育て支援に係る事業の推進 ○保育所や保育園を計画的に運営し、円滑な保育環境を整備します。 ①既存保育所、保育園の計画的な運営の支援 ②保育の資質向上に向けた国東市保育園協議会による研修会や会議内容等の充実 ○少子化解消に向けて子育て世帯に対して経済的な支援をします。 ①国・県と連携して児童手当、児童扶養手当支給事業の推進 ②母子・父子家庭医療費助成の効果的な推進 ③子ども医療費助成制度のさらなる充実 ④未熟児療育医療給付制度の推進 ⑤県と連携した保育所に通う保護者への支援策の推進 ⑥適正な予防接種方法の推進と任意接種補助事業の推進と追加策の検討 ⑦出産祝金制度内容の広報・周知活動の促進 ○子育てに関する様々な施策を実施、子育て環境の向上を図ります。 ①市内4か所の子育て支援センターのさらなる充実 ②市内全小学校区にある放課後児童クラブの支援 ③民生・児童委員によるハッピーメール活動の推進 ④保健師による乳児家庭全戸訪問のさらなる充実 ⑤乳幼児前・後期・1歳半・2歳・3歳児健診の充実 ⑥5歳児相談会における学校教育・福祉部局との連携を強化 ⑦思春期保健対策の充実			福祉課 医療保健課	

II-2

地域や保護者と対話しながら良好な教育環境を整備します。【教育環境整備】

施策別主要な事業		成果指標	平成27年度具体的取組	総合評価	評価と課題
(1) 市内教育環境整備の計画的な推進					
○「国東市学校・園教育環境整備計画」に沿った事業を推進します。					
①全校児童数30名程度の学校についての統合の検討	2校	・竹田小学校と武蔵西小学校の2校が児童数30人以下の学校のため統合へ向けての説明会を実施。	A	・教育委員会の内部で統合の方向性について十分な協議・準備が必要。	
②学校環境に対する保護者や地元住民への十分な説明と理解の醸成	2回開催	・国見・武蔵の2地区で統合に対する保護者アンケートの実施。 ・地元説明会 国見地区 1回 武蔵地区 2回 ・保護者説明会	A	・2地区とも反対の方が多く、納得してもらえないよう丁寧な説明が必要。 ・地元が疲れるなど統合反対の意見があり、再度の説明が必要。 ・アンケートを基に説明会を開くが統合反対の意見がほとんどで、再度の説明が必要である。	
③学校施設や備品の計画的な改修、整備	実施	・国見中学校グラウンド改修 ・小中学校非構造部材耐震化整備	A	・完成 ・完成	
④スクールバス運行と通学バス援助の実施と統一策の検討	実施	・スクールバス対象者 安岐中小 46人 菅来小 26人 国東小 25人 安岐中 28人 ・通学バス援助対象者 熊毛小学校 21人 伊美小学校 10人 国見中学校 21人 国東中学校 82人	B	・安岐中央小のバスは市所有で、運転手のみ委託、国東・菅来小は全部委託、伊美・熊毛小は路線バスの補助金と地域性があり統一するのは難しい。	
⑤市内3か所の給食センターの計画的、効率的な運営		・3調理場合同連絡会議の開催 栄養士・調理員ほか12名参加 ・危機管理検討会、研修会 4回 ・新システム導入による業務の効率化 栄養管理研修会 2回 カローリーメイク7の導入 ・学校給食アンケート調査を武蔵町内の小中学校を対象に実施	A	・計画どおり取り組めた	
⑥給食センターと地域との連携による学校給食の推進		・学校給食で地産・地消道の駅くみにみ、夢咲茶屋、ふるさと市場R213を積極的に活用 ・地元農家との交流給食会（国東小） ・地産地消や郷土料理等の献立で給食を提供する。食育の日（毎月19日）	A	・出来るだけ地域で調達できるものは調達している ・課題は時期によって野菜など量的確保が困難となる	

			食育月間(6月)、まるごと大分県(11月)、学校給食週間(1月) ・夏休み子ども料理教室を開催 武蔵町で開催、小学生33人参加	
--	--	--	---	--

II-3 連携協働による「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育む学校教育を推進します。【学校教育】

施策別主要な事業	成果指標	平成27年度具体的取組	総合評価	評価と課題
(1) 学校の組織力や教育力向上の推進				
○学校組織力の適正化を図り、総合的な学校力の向上を推進します。				
①学校長の認めた主任等による運営委員会の開催と内容の充実	100%	・運営委員会の定期的な開催 ・学校評価4点セットに基づいた運営委員会の開催	A	・提案の精度を高める。・・・練った提案を職員会議で周知徹底する。 ・主任等が主体的に運営にかかわる。 ・ミドルアップダウンマネジメントの確立を図る。
②各級主任のスキル向上のための研修会の実施	100%	教務主任会(3回)研究主任会(3回) 体育主任会(2回) 生徒指導主任会(1回) 人権教育担当者会議(2回) 特別支援教育コーディネーター研修(2回) 情報教育担当者研修(1回) 自己評価公開(HP・学校便り)100%	A	・研修会の実施によりスキル向上に繋がった。 ・参加体験型研修等の充実を図った。
③学校評価の十分な分析と効果的な運用・公表	100%		A	・検証が改善につながるPDCAサイクルの確立が必要である。
④模範や大規模教育困難校へ市が雇用する学習支援教員を配置		・10名配置 (2複学級・多人数学級・教育困難学級)	B	・今後も学習支援教員の配置を確保し、習熟度別指導等に取り組み、学力向上を図る。
⑤必要とする学校へ市が雇用する特別支援教育支援教員を配置		・24名配置	B	・今後も特別支援教育支援教員の配置を確保し、個別の支援ができる体制を構築する。
○保護者や教職員との情報共有を図り、学校の教育力を向上します。				
①「学校だより」の発行やHPの更新を推進	100%	・週1回以上のHPの更新率86.7%	B	・週1回以上のHPの更新率100%を目指す。
②教育の指針を確認するため、市主催によるフォーラムの開催	年1回	・「教育の里づくり」の集いの開催 (11月28日) 参加約400名	B	・第5回の節目が終わり、今後は児童生徒の学習成果等の発表の場として位置づけ定期隊。
(2) 学力向上に向けた各種施策の推進				
○学校組織や地域力を活用した学力の向上を図ります。				
①学力向上プランを活用し、各種学力調査における成績の向上	100%	・市学力調査で小学校理科(小4～小6)以外は、全て全国平均を上回った。	B	・ユニバーサルデザイン授業、習熟の程度に応じた指導、家庭学習の充実
②市の学習のきまり「くにさきっ子学習十ヶ条」の推進	100%	・「くにさきっ子学習十ヶ条」を守った児童生徒割合 83.0%	B	・児童生徒割合を90%を目指す。

③教職員の資質向上のため公開授業への参観の促進と授業力の向上	100%	・学力向上支援教員等の公開授業に年1回参加した教職員の割合100%	A	・県教委主催の公開授業への参加調整が必要である。
④学力向上に向けた保護者への意識改革関連の広報・周知活動の促進	100%	・目標協働達成の取組の周知	B	・家庭学習の充実につながった。
⑤A L Tを活用した外国語教育の推進とさらなる体制の整備		・A L Tを計画的に活用する。	A	・効果的な活用はできている。
⑥全国学力・学習状況調査で全国平均以上を目指す。	小学校11校 中学校5校	・全学校、全教科において全国平均以上を目指す。 (小学校2校/11校) (中学校1校/4校)	C	・授業改善を図り、知識・技能の定着のみならず、活用力の向上を図る。 ・市の学力調査結果に応じた個別の指導を徹底し、次年度に送る。
(8) 豊かな心の育成や体力向上のための施策の推進				
○生きるために必要な豊かな心を醸成します。				
①命の大切さ等を学ばせる道徳教育の推進	100%	・体験的参加型学習の実施率100%	A	・今後も取り組んでいきたい。
②各種人材や適応指導教室を活用、登校しやすい環境を整備	100%	・中学校でのスタートプログラム策定	A	・スタートプログラムの着実な実践とアプローチプログラムの策定を行う。
③各種団体と連携した自然体験活動の促進	100%	協育ネットワークの活用 集団宿泊学習	B	・全学校・全学年での活動を促す。
④不登校児童・生徒の割合の減少	0.5	不登校児童・生徒の出現率0.85	C	・中学校生活への丁寧な適応を促し、出席率の減少を目指す。
○生きるために必要な体力向上の取り組みを推進します。				
①体力向上策について「一校一実践」の推進	100%	・全学年3日以上実施する。 (学校割合93.3%)	B	・全学校、全学年において週3日以上実施できるようにする。
②体力・技能の向上を図るための効果的な指導方法の検討・実践	5回	・小学校2校に体育専科教員を配置し、配置校及び訪問校、及び中学校体力向上推進校における取組の推進及び授業公開	B	・小中学校共に体力・運動能力調査の結果は伸びているが、運動への愛好度の伸びにはついていない。楽しみながら取り組める体育授業や体力向上の取り組みを行う。
③家庭での縄跳びタイム(家庭)の効果的な推進	80%	・小学校の家庭における縄跳びタイムをはじめとする家庭での運動実施率80%	B	・実施率72.8%。家庭での年間を通じての継続的実施が課題で表彰などの取組が必要。

II-4 社会教育活動により地域人材を育成し、学びの空間を創造します。【社会教育】

施策別主要な事業	成果指標	平成27年度具体的取組	総合評価	評価と課題
(1) 社会教育(生涯学習)事業の計画的な推進				
○社会教育(生涯学習)活動の基盤である学習活動の促進を図ります。				
①各種機関と連携して家庭教育のさらなる充実	年2回以上	・家庭教育啓発のため毎月1回「親の学び」をテーマに学習資料を作成し市内小学生の保護者へ配布し、家庭教育への関心の向上を図った。	B	・例年の講演会とは構成を変え、家庭教育に関する映画上映と併せて、専門家による講演会を実施し、鑑賞者・聴講者から好評を得た。これまでの単独での家庭教育講演会と違い、市自主

	<p>②青少年教育としての協育ネットワーク事業のさらなる充実</p>	<p>放課後チャレンジ教室は年間40回・土曜教室については10回開催する。</p>	<p>・学校支援事業の実施 (土曜日教室含む)</p>	<p>事業と連携することで集客力も飛躍的に向上したことは今後の事業展開においても重要な要素といえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度関心を持った保護者、地域住民が継続的な学習ができるよう情報提供や学習の場を拡大させることが求められる。 ・学校支援事業・・・27年度実績で11小学校・3中学校を支援し、対象児童・生徒教延べ43,493人、支援者教延べ2,501人と協育ネットワーク事業の中でも最も組織的な支援ができ、地域の方たちの協力により充実した事業となっている。来年度も継続して行う。 ・放課後チャレンジ教室・・・平成27年度より放課後チャレンジ教室として、従来の「学びの教室」と「子ども教室」を一括して事業展開している。市内11小学校で各年間40回以上開催した(学習支援30回体歌活動10回)。 延べ423日、参加児童教延べ8,077名、延べ指導者数1,837名となっている。算数・国語を中心に各児童のレベルに合わせた指導を行っている。昨年の国東中学校区に続き、国見中学校区(3校)が「優れた地域による学校支援活動」として文部科学大臣表彰を受賞した。28年度も継続して行っていくが指導者の確保が必要となっている。 ・土曜教室・・・平成26年度より開催し、2年目を迎えるが、指導者の確保が難しい校区もあり小学校では11校中8校の実施に留まった。中学校においては指導者の確保が整い、4校全てで実施できている。小中延べ開催日数は114日(内中学校31日小学校83日)、延べ参加児童・生徒数1,128人(内中学生494人小学生634人)、延べ指導者数296人(内中学校指導者77人小学校指導者219人)となっている。 ・指導者の不足により開催できない小学校があるのと、週休2日制の定着により社会体育や習い事などの関係で土曜日の参加者が少ないが学力の向上や子どもの居場所づくりの為に来年度も継続して行う。指導者不足により開催ができ
--	------------------------------------	---	---------------------------------	---

				<p>ない学校の解消に努める。</p>
<p>③国際社会を担っていく海外交流事業の推進</p>	<p>・8月21日～23日にかけて韓国彦州中学と交流事業を行う予定であったが、マーズ（中東呼吸器症候群）の感染拡大のため、事業を中止した。</p> <p>・国東演劇講座を新設</p>	<p>A</p>	<p>・青年連映画放送株式会社との提携・協力により本格的な講師陣を招聘し、国東の演劇、芸術文化の向上を推進した。平成27年6月より開始し、翌年3月には舞台発表「遙かなる海の讃美歌～べと口岐部物語」を公演し、好評を得た。</p> <p>・平成28年度も継続して開設する。</p> <p>・平成29年度大分市公演、平成30年度国民文化祭公演を予定しており、今後さらなる活動の拡大と質の向上を図る必要がある。</p>	<p>・平成27年度の成人式を8月15日に挙行了した。成人式は成人者による実行委員会を組織し、式典の役割者や終了後の同窓会の内容等を検討した。数年後に成人を迎える高校生もボランティアで参加するなど意義ある成人式となっている。対象者を市内中学校卒業者と住民票のある者としている。国東市出身者の参加は多いが、転入者はお盆時期の開催の為、地元へ帰省する成人者が多い。国東の魅力を知ってもらいたい住民としての誇りと意識を持ってもらうよう努力する必要がある。県下で夏の成人式は2市町であるが市外に出ている成人者が出席しやすく好評の為、継続して夏季の開催を行いたい。</p> <p>・国東地区 女性に役立つ多様なテーマに沿って学習会を開催した。平成27年度会員数は43名。</p>
<p>④成年の学びのニーズを調査して新しい講座開設の検討</p>		<p>A</p>	<p>・出席率 75.2%(全体) " 83.1%(市内)</p>	<p>・平成27年度の成人式を8月15日に挙行了した。成人式は成人者による実行委員会を組織し、式典の役割者や終了後の同窓会の内容等を検討した。数年後に成人を迎える高校生もボランティアで参加するなど意義ある成人式となっている。対象者を市内中学校卒業者と住民票のある者としている。国東市出身者の参加は多いが、転入者はお盆時期の開催の為、地元へ帰省する成人者が多い。国東の魅力を知ってもらいたい住民としての誇りと意識を持ってもらうよう努力する必要がある。県下で夏の成人式は2市町であるが市外に出ている成人者が出席しやすく好評の為、継続して夏季の開催を行いたい。</p>
<p>⑤夏開催の成人式のさらなる充実</p>		<p>B</p>		<p>・国東地区 食育、消費者問題、人権問題、市政、交通安全等についての学習会や生涯学習フェスタへの参加</p> <p>・武蔵地区 「浴衣の着付け教室」・「研修「人権研修」・「3B体操」・「研修視察」・「絵手紙教室」などの学習</p>
<p>⑥各種団体と連携して女性教育のさらなる充実</p>				<p>・全体事業としては婦人団体連合会に県のファミリームへの参加を呼掛け、多くの参加を得たが、女性団体にも高齢化、後継者不足の波が押し寄せてきており、存続が危ぶまれているので、さらには継続的な取り組みが必要である。</p>

	<p>⑦福祉部局等とも連携した高齢者教育のさらなる充実</p>	<p>・各部署や団体と連携し高齢者に様々な学習機会を提供する。</p>	<p>B</p> <p>・国見地区 高齢者研修では、2地区公民館で実施し大変多くの参加者が見られ、地域の高齢者の健康増進や生きがいづくりに役立っている。今後は、より魅力的な研修を続けていく必要がある。</p> <p>・国東地区 各6地区館で年間10回程度高齢者学級を開催している。高齢者の生活に必要な各種テーマに沿って講師を招き、多くの高齢者が参加している。今後も伝統ある国東地区の高齢者学級を継続し、高齢者の生きがいづくりを図る。</p> <p>・武蔵地区 各2地区館で毎月1回開催。年々多くの受講生が集まり好評を得ているが、教室生の固定化がみられることが課題であり、今後学習内容がマンネリ化しないように継続していく。</p> <p>・安岐地区 講師の確保や講座ごとの適正定員を設けざるを得ないことにより全希望者の要望にこたえることができなかつたのが課題である。また、新たな講座開設の要望があるので検討していきたい。この講座が高年齢の生きがいづくりや生涯学習の場となっているので今後も継続していく。</p>
<p>○青少年健全育成を推進し、地域人材への登用を図ります。</p> <p>①青少年健全育成会議を中心にした健全育成施策の推進</p>	<p>・各町ごとに支部会議を形成し、各地域に合った取り組みを行う。市全体としても講演会をはじめ体験活動などの取り組みを行う。</p>	<p>B</p> <p>・国見地区 5月 芋つるさし〜11月 芋尊収穫祭 6月〜10月 花いっぱい運動 10月 通学共同宿泊体験 12月 くみわくわくクリスマス会 ジュニアリーダーとのゲーム・ダンス交流会やクリスマスリース作りを実施(子ども会共催事業) 各校区で特色ある活動を地域とともに実施しており、このような多様な体験を積むことで、児童の自主性を育むとともに、地域と触れあう機会として定着している。また、横断的取組としてジュニアリーダーを中心にした体験活動も実施している。今後も継続的な異年齢交流を通じた人材育成としての青少年健全育成活動を展開して行きたい。</p>	

			<ul style="list-style-type: none"> ・ 国東地区 家庭家族のポスター・作文募集 ・ 武蔵地区 カルテイルバルにおいて、ステージ発表 ・ 安岐地区 ふれあいグラウンドゴルフ大会 年末行事体験 年始ふれあい体験 ・ 国東市 親子川柳募集（市内より2作品入選） 市内2ヶ所のスーパーでの啓発活動 青少年健全育成映画「ハードル」の上映 くにさき探検隊（スキー合宿）24名参加 <p>青少年を取り巻く環境は年々厳しいものがあるが地域の方たちの協力で健全な育成に取り組んでいきたい。</p>
<p>②子ども会組織を支援し、ジュニアリーダーの養成</p>	<p>・ 子ども会組織への支援</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども会組織の支援 ● 国見地区 8月20日（木） そうめん流し大会（竹藪材によるソーメン流し、ゲーム大会） 12月23日（水） くにみわくわくクリスマス会 ジュニアリーダーとのゲーム・ダンス交流大会やクリスマスリース作りを実施（青少年健全育成国見支部共催） 今年度は、新たに体験活動として竹藪材を使った「そうめん」流しに挑戦した。その他各種イベント企画についても保護者やジュニアリーダーの協力のもと、子ども会員相互の親睦と交流が図れた。 ● 国東地区 夏期休暇中の球技大会としてスマイルボーリングを行い、8地区80名の参加があった。各地区の清掃活動、新春書き初め大会など多くの参加・応募があったが、毎年決まった地区からの参加となっているので、他の地区にも参加を呼び掛けていきたい。 ● 武蔵地区 単位子ども会の数が年々減少しているのが現状。今後、近隣地区の合併等対策を考えることが必要である。

<p>●安岐地区 子ども会独自事業の開催や親子連 事業への参加促進を行っていくことが求められ る。</p> <p>●ジュニアリーダーの養成</p> <p>●国見地区 7月～2月 定例会の実施（4回） 7月 サマーカーコミュニケーション 8月 放課後子ども教室ボランティア（アフリ カの文化と遊ぶ参加）ジュニアリーダーOBと の交流会/そらめん流し大会参加 12月にみわくわくクリスマス会参加 今年度2期生のジュニアリーダーを結成、1 期生との交流事業も実施した。また、多くの体 験活動の場面では小学生に対して適切なリーダ ーシップを発揮して自主的な企画立案を実践し ている。今後は、ジュニアリーダーの繋がりを 深め、継続的な組織の発展を目指して行きたい。</p> <p>●国東地区 高校3年生を中心とした10名 がリーダーとして活躍してくれた。今後は2年 生以下の参加を促し、育成していくことが課題 となっている。</p> <p>●武蔵地区 会員数の減少でサマーカーコミュニ ケーション・県大会等参加できず、今後新加入 の人数増が望まれる。</p> <p>●安岐地区 部活動等による会員の大幅な増 加が見込めない状況であるが、各種青少年事業 で運営を任せることで、ジュニアリーダーとし ての自覚ができ、子ども会行事にリーダーとし て協力してくれた。今後もより多くのリーダ ーを育てていきたい。</p>	<p>・ジュニアリーダーの研修会等に積極 的に参加させる。</p>	<p>B</p>	<p>・ボランティア協議会が中心となり、 学びの教室、とみくじマラソン、瀬戸 内駅伝、弥生のムラや秀徳園のお祭り 補助などを行う。</p> <p>・学校支援事業・放課後子ども教室を とおして体験活動を推進する</p>	<p>○地区公民館活動を促進し、地域コミュニティー再生を図ります。 ①地域コミュニケーション（仮称）を通じたまちづくり活動の拠点化 の検討</p>
<p>●安岐地区 子ども会独自事業の開催や親子連 事業への参加促進を行っていくことが求められ る。</p> <p>●ジュニアリーダーの養成</p> <p>●国見地区 7月～2月 定例会の実施（4回） 7月 サマーカーコミュニケーション 8月 放課後子ども教室ボランティア（アフリ カの文化と遊ぶ参加）ジュニアリーダーOBと の交流会/そらめん流し大会参加 12月にみわくわくクリスマス会参加 今年度2期生のジュニアリーダーを結成、1 期生との交流事業も実施した。また、多くの体 験活動の場面では小学生に対して適切なリーダ ーシップを発揮して自主的な企画立案を実践し ている。今後は、ジュニアリーダーの繋がりを 深め、継続的な組織の発展を目指して行きたい。</p> <p>●国東地区 高校3年生を中心とした10名 がリーダーとして活躍してくれた。今後は2年 生以下の参加を促し、育成していくことが課題 となっている。</p> <p>●武蔵地区 会員数の減少でサマーカーコミュニ ケーション・県大会等参加できず、今後新加入 の人数増が望まれる。</p> <p>●安岐地区 部活動等による会員の大幅な増 加が見込めない状況であるが、各種青少年事業 で運営を任せることで、ジュニアリーダーとし ての自覚ができ、子ども会行事にリーダーとし て協力してくれた。今後もより多くのリーダ ーを育てていきたい。</p>	<p>・ボランティア協議会が中心となり、 学びの教室、とみくじマラソン、瀬戸 内駅伝、弥生のムラや秀徳園のお祭り 補助などを行う。</p> <p>・学校支援事業・放課後子ども教室を とおして体験活動を推進する</p>	<p>B</p>	<p>・現状の自治組織で対応</p>	<p>B</p>

	<p>②市内1.6地区館ごとの事業への支援</p>	<p>・各16地区館に館長主事を配置し、交付金を地区館運営費として支給している。</p>	<p>B</p> <p>・市内1.6地区館では地域活動の拠点として、学習情報の提供や生涯学習の推進など地域が活性化するための多様な取り組みを行っている。各地域で少子高齢化が進む中、地元愛に燃え、ふるさとを知り尽くした人材づくりを目指し、住民自治による地域課題の解決を目指した様々な活動を実践していくことが望まれる。</p>
<p>(2) 地域ブランド力の指針となる図書館事業の充実</p>	<p>○市内全域の図書環境の整備を図り、特色ある図書館を目指します。</p> <p>○図書館の開館時間の延長についての検討</p> <p>①図書の共育と地域振興のため4館の特色ある図書館づくりを推進</p> <p>②耐震性の低い国見図書館の整備を支所整備と一体的に推進</p> <p>③図書の共育と地域振興のため4館の特色ある図書館づくりを推進</p> <p>④ユニバーサルデザインの視点を取り入れた読書環境の整備</p>	<p>A</p> <p>・夏季休業中は平日のみ開館時間を延長した。(8:30~18:00) (通常は10:00~18:00)</p> <p>・市の建築計画の中で協議する。</p> <p>・幅広い年齢の方々に参加しやすい、また、地域のバランスなどを考慮して、それぞれの館で読書週間に行事を実施した。期間中は、ブックリサイクルも実施した</p> <p>現在は特別な取り組みはしていない。</p>	<p>A</p> <p>・開館時間延長(10時まで)に来館した人 276人(前年比)50%減 市民への周知が十分でなかった。今後は周知方法を見直し利用拡大につなげたい。</p> <p>-</p> <p>政策企画課を行っている。</p> <p>B</p> <p>・行事を通して利用者拡大を図ったが、その後も継続的に図書館を利用してもらえるかが今後の課題である。</p> <p>A</p> <p>数年前まで整備して来た。今後必要か所があれば対応していきたい。</p>
<p>○各種図書館事業のさらなる充実を図って、地域力向上を目指します。</p>	<p>①乳児検診時の絵本の提供等、ブックスタート事業のさらなる推進</p> <p>②本と向き合える0歳時からの「おはなし会」の開催</p> <p>③年齢に配慮した図書を選定したコーナーの設置</p> <p>④障がい者・高齢者向きの本の宅配サービス事業の推進</p> <p>⑤「図書館まつり」や「クリスマス会」等行事の開催・開発</p>	<p>A</p> <p>乳児検診時にボランティアと図書館職員による読み聞かせを行い、保護者に事業の主旨を伝え、ブックスタートパックを手渡す。1歳6ヶ月検診時には読み聞かせを行う。</p> <p>・各図書館で「おはなし会」を開催 国見図書館：12回 36人 くにさき図書館：23回 189人 武蔵図書館：46回 272人 安岐図書館：10回 81人</p> <p>・高齢者が読みやすい大活字本のコーナーを設置している。</p> <p>・登録者29名、宅配冊数2,224冊、宅配回数544回(H26 441回)</p> <p>・くにさき図書館 図書館まつり(8月2日)92人 クリスマス会(12月23日)158人 ・安岐図書館</p>	<p>A</p> <p>・国見3回、くにさき13回、武蔵6回、安岐6回実施。対象者303名。</p> <p>・ブックスタート後の親子に対し、おはなし会を提供し家庭での読み聞かせに繋げる必要がある</p> <p>A</p> <p>・各館で工夫して、ボランティアや職員による絵本の読み聞かせや工作を行っている。読み聞かせに来る子どもの年齢層がさまざまに難しい点もあるが、今後も継続する。</p> <p>A</p> <p>子ども向けのコーナーもある。高齢者向けは、資料が徐々に増えてきたので、今後揃えていく。</p> <p>A</p> <p>・年々利用者は増えている。今後も定期的な広報活動により利用者の拡大を図る。</p> <p>B</p> <p>・図書館まつり、クリスマス会ともボランティアの協力もあり盛況だった。今後も連携をとりながら実施していく。</p> <p>・市報やホームページでお知らせしたが、周知</p>

			図書館まつり (8月17日) 146人 クリスマス会 (12月12日) 61人	方法が今後の課題である。
⑥移動図書館や施設・学校等への配本・資料提供サービスの充実	・移動図書館 市内小学校に月1回ペースで行った。延べ5,492人 前年比3.3%減 貸出冊数:13,824冊 前年比3.5%減 ・学校への配送サービス 市内小中学校へ本の配送を行った。利用件数:546回 前年比27.5%増 配送冊数:21,272冊 前年比15.5%増	A	・小学校は積極的な利用があった。 ・調べものの用の資料は要望される時期が重複する可能性があるため学校司書と図書館司書との合同会議にて、問題点等を出し合い、改善に向け協議した。更に利用しやすいよう、今後も密に連携を図る必要がある。	

II-5 社会体育を多方面に活用し、スポーツ政策を計画的に推進します。【社会体育】

施策別主要な事業	成果指標	平成27年度具体的取組	総合評価	評価と課題
(1) 社会体育事業の計画的な推進				
○スポーツ事業を推進、スポーツによる地域の活性化を目指します。				
①「スポーツ施設建設計画」を策定、計画的な補修・整備を推進		・計画策定の平成28年度予算措置を行った。 ・老朽化している箇所や危険箇所について随時修繕を行った。 ・MAKK笑人クラブの加入申し込みチラシの区長回覧を実施した。 ・MAKK笑人クラブと小学生陸上・水泳教室の委託契約を締結した。また、体力テストについても共同で実施した。 ・スポーツ少年団指導者認定員養成研修への参加へ72人が参加した。(国東市で開催)	B	・第2次国東市総合計画に明記されているスポーツ施設整備計画の策定が必要である。
②総合型地域スポーツクラブの支援とクラブ基盤の強化を推進			B	・体育協会事業等を通じて、MAKK笑人クラブと連携することができた。特に小学生水泳・陸上教室については、MAKK笑人クラブと委託契約と結び、教室の安定的な運営体制の確立ができた。
③減少傾向にある地域スポーツ指導者の育成			A	・国東市での開催で、例年より多くの指導者が研修を受けることができた。今後も、特に若い世代の指導者の育成が必要である。
④国東市体育協会との連携による総合的なスポーツ政策の推進			B	・市民が参加できて、スポーツに対する興味を持てるような事業を行う必要がある。 ・体育協会の各種事業や全国大会等への出場支援を通して、選手の育成・強化を今後も推進していく必要がある。
⑤地域間・世代間交流や青少年健全育成を目的とした各種大会の開催	90回	・体育協会で開催事業(県体・県内一周駅伝)、支援事業(職域駅伝)、交流事業(ハイワイブ・市駅伝)、青少年	B	・体育協会(支部含む)が実施・支援する大会数は目標値に達していないが、今後も大会開催に努めていく必要がある。

			健全育成事業等(小学生陸上・水泳教室、すくすくスポーツ祭等)、各支部事業を実施した。 ・各競技団体が主催する大会に補助し、大会開催に対する支援をした。		
			⑥福祉部局と連携して高齢者でも楽しめるニュースポーツの検討	B	・「体カテスト」はスポーツ推進委員及び総合型地域スポーツクラブの協力で実施したが、当日の参加者が少なく、開催場所・日程等の検討が必要である。 ・今後はニュースポーツも含めた陸スポーツの紹介が必要である。
		⑦とみくじマラソンや九州瀬戸内高等学校駅伝大会の支援・活用策の検討	・とみくじマラソン大会へ協力した。 ・九州瀬戸内駅伝(男子27校 女子27校)を実行委員会を中心に開催した。	B	・とみくじマラソンはスポーツ推進委員国東支部がスタッフ(9名)として協力している。 ・九州瀬戸内駅伝は、全国各地からの参加者に国東市のアピールができた。また、フードコーナーを実施した。今後は、関係部局と連携して特産物の販売等の検討も必要である。

II-6 国東の新たな可能性としての文化・芸術政策を推進します。【文化・芸術】

施策別主要な事業	成果指標	平成27年度具体的取組	総合評価	評価と課題
(1) 文化政策の計画的な推進 ○ブランド力を高めるため文化事業を推進します。				
①国・県や企業メセナ等と連携した効果的な文化事業の推進		・地方創生推進交付金を活用し、青年座映画放送(株)の協力により、国東演劇講座の通年実施並びにペトロ・カスイ岐部を題材とした国東市オリジナル脚本を制作し、講義生の出演による演劇公演を3月に開催した。	A	・平成27年度演劇講座については、市内外より40名以上の参加があった。3月の公演は、13時と17時の2回公演を実施し、合計1,000人の観客であった。平成27年度のアストホール自主事業の入場者数は増加傾向にあり、一連の演劇の取り組みを市内外にアピールしたことにより、アストホールの知名度アップに繋がっていると考える。平成28年度以降も継続して、演劇講座を実施し、アストホールの知名度アップに繋がりたい。今後の課題として、市民参加型の演劇公演を定期的に開催ができるような体制を整える必要がある。
②地域伝統芸能や文化協会等関連団体と連携した文化事業の推進	各町での開催	・文化祭や生涯学習発表会等の開催	B	多くの団体が出演しているが観客を増員する工夫が必要である。

				<p>各団体の高齢化、後継者不足が課題となっている。</p>
<p>③郷土の偉人や国東市出身の文化活動家の発掘・活用</p>			<p>・大分県地域活力づくり活動支援事業補助金を活用して、国東の偉人伝を国東市出身の漫画家を起用して制作し、市内外の幅広い年齢層に普及し、市の活性化に繋げる。</p> <p>・モニターレポート振興費のシンポジウム助成事業費を活用して、「くにさきマンガフオーラム2015」を開催。これは、国東市出身の漫画家や国東市を題材にした漫画等をメインに取り上げ、アストホールを中心に、くにさき総合文化センターにて、様々なイベントを開催した。</p>	<p>B</p>
<p>④文化事業推進のため市内3館の特色ある文化事業の推進</p>	<p>国見：200人 武蔵：350人 国東：600人</p>		<p>・国見：15年以上続いている世界に聴く!みんなかん辯演会等の継続実施 ・武蔵：落語会の継続実施 ・国東：青年座映画放送(株)との連携協定により、演劇・映画等を実施した。更に、平成27年度は、市民に本格的な芸術に親しんでもらうことを目的として、世界的に有名な「西本智実」指揮によるオーケストラの公開リハーサルを実施した。</p>	<p>B</p> <p>・国見:実績参加者数 96名 ・武蔵:実績参加者数 350名 ・国東:5事業実施、平均参加者数 460名</p> <p>・自主事業イベントへの平均参加者は増加傾向にある。今後も青年座映画放送(株)の協力のもと、集客が期待できる企画立案、広告宣伝に努めるとともに、市民に本格的な芸術に親しんでもらう場の提供に努めたい。</p>
<p>⑤市内施設の集客力を向上して、貸館事業を促進</p>			<p>・より多くの事業が実施されるよう使いやすいホールを目指す。</p>	<p>B</p> <p>・利用料の見直しや申請時間の見直しについてのPR。 ・青年座映画放送(株)の協力のもと、魅力ある自主事業を実施し、アストホールの知名度を上げることで、ホール稼働率の向上に繋げたい。</p>

(2) 芸術政策の計画的な推進

○芸術のまちづくりにより、地域活性化を推進します。

- ①市内の「アート・工芸」団体との連携の推進
- ②国東半島芸術祭実行委員会と連携して芸術祭のさらなる充実と実践
- ③国東半島芸術祭と観光部局や地域文化団体との連携の推進
- ④平成28年に開館する「大分県立美術館」との連携策の推進

活力創生課

悠久の歴史のまち国東に相応しい文化財政策を推進します。【文化財】

施策別主要な事業	成果指標	平成27年度具体的取組	総合評価	課題
(1) 文化財保存・活用事業の計画的な推進				
○文化財の保存・活用に努め、国東市の文化財を後世に継承します。				
①国・県・市指定の文化財の適切な保存と活用策の推進		・ギリシタン墓調査の調査報告書を刊行するとともに説明会を実施し、正しい歴史認識を持つことの重要性を啓発した。 ・現在3ヶ年計画で文化財調査委員会による文化財の所在確認調査を実施中である。 ・個人住宅などの建て替えに伴う調査	B	文化財の所有者や、関係者の理解を得るのが困難であるが、今後時間をかけて理解を得たい。
②文化財調査委員会組織の充実			B	・課題として、調査はできても価値評価を下すのは困難である
③国・県と連携して文化財整備事業や埋蔵文化財調査の推進			A	・調査の結果、明確な遺・構造物は検出されなかった。 ・市内の至る所で説明板の劣化が見られる。
④文化財の活用に資するため「説明版」の効果的な設置		・多数の文化財の再調査を実施して、新規設置1箇所、修理2か所行う。	B	
⑤文化財愛護少年団のさらなる充実		・市内少年団15団体に呼び掛けて、市愛護少年団つどいを実施。弥生のムラ「六郷満山霊場の寺宝展」や熊野磨崖仏などを見学。	B	・集いの参加者40人 ・課題は、少子・高齢化に伴う会員の減少。
⑥文化財情報や文化財保護情報の広報・周知活動の促進		・市報、ホームページを活用して、文化財防火訓練や文化財保存修理現地説明会をお知らせする。 ・文化財保護に対する理解を図る。	A	・安国寺集落遺跡竈穴住居の修理見学会を実施。 ・課題としては如何なるメディア媒体が有利なのかを検証する必要がある
⑦各種団体等と連携して文化財の活用策の検討・推進		・文化財保存会、ギリシタン南蛮文化協定との連携、ウォーキングの実施	B	・ウォーキング参加者には概ね好評。 ・課題は、否定されたギリシタン関連の遺構に参加者の反応はまちまち。今後教育行政としてどのように対応していくかが課題。
⑧国東市誌の効率的、計画的な編纂の検討・作成		・将来的目標として検討	C	・将来的な編纂を見越して文化財の現状把握に努める。
○偉人の顕彰・発掘を通じて活力ある地域を創ります。				
①偉人の顕彰を進め、学校教育や社会教育活動での活用		・市内の学校での「偉人伝」の活用、社会教育関連施設での販売とともに、ボスター・チラシでお知らせする。	B	・まだどこで入手できるか、どのような内容なのか、広まっていないようだ。引き続きお知らせしていく必要がある。
②偉人の顕彰により、観光、交流、教育振興局との連携によるまちづくりの推進		・郷土の偉人、瀬口武士・末綱一フオーラムを実施100名の来場者を目指して進める	A	・当初の予想の倍近くの聴講者があった。今後引き続き連携を密にして情報の発信をしていくことが重要である。

(2) 文化財関連施設の適正な管理・運営施策の推進

○各種文化財関連施設を計画的に、適正に運営します。

<p>①各種文化財施設対象のさらなる検証や展示内容の広報・周知活動の促進</p>	<p>19,500人</p>	<p>・来館者数の増加 ○国東市歴史民俗学習館 16,429人 弥生のムラ年中行事（七日正月、雑節句、端午の節句）古代まつり、企画展（梅園遺墨寄贈品展と教学コレクション展、次代を生きた食と暮らし展、六郷満山開創千三百年祭ブレイアウト「仏と神と鬼が築う前夜祭六郷満山霊場の寺宝展、幕末明治の志士遺墨展）を実施。ボスター・チラシを作成し配付。報道機関を活用して情報の発信を行った。 教科に沿った体験カリキュラムを見直し、市内の学校に出前授業の実施や実際の発掘に沿った体験プログラムとした発掘体験や復元住居の現場説明会を行った。</p>	<p>B</p>	<p>○年中行事については、報道機関を活用したことから、市外からの問い合わせや申込み参加が増加している。企画展も六郷満山開創千三百年祭ブレイアウト「仏と神と鬼が築う前夜祭六郷満山霊場の寺宝展では、市内外から4,033人の観覧者を迎え好評を頂いた。古代祭りはT1グランプリと共同開催で盛況で延べ4,000人の来場となった。 イベント時は恒常的に駐車場が不足しており、企画展では、大型観光バスの受入のために体制を整えていくことが必要である。 体験についても、一度に多くの団体を受け入れることが出来ないことと止む無く断らなければならないことがある。特に夏休み期間中は雨天時の対応策としての要望が多い。 開館後15年を経過しており、現在施設整備検討委員会を設置し、施設の再整備を進めているが、遺跡公園を含めて各所で改修が必要となってきている。特に遺跡公園とを結ぶ橋の欄干が木製で痛みがひどく早急に改修が必要である。 ○年間入館数に反映はなかったが、郷土の偉人が地元にいることを知らせる機会が出来た。今後企画展等を開催し、来館者呼び込む必要がある。 ○定期の開館により、好評で戦後70年ということ由来館者が少しではあるが増加した。展示が、開館以来のままであることから、展示替えや解説等の作り替えが必要である。</p>
<p>②各種文化財施設の事業・管理計画を策定して計画的な事業と整備を推進</p>		<p>・国東市歴史民俗学習館・三浦梅園資料館・山溪偉人館・諸田伝承館の管理を実施行ってきた。危険な箇所を優先に、修繕を行ってきた。</p>	<p>A</p>	<p>・各施設建築後10年を経過しており、特に電気設備が対応年数を超え交換が増えている、また、施設の修繕が順次必要となっている</p>

【その他 関連項目】

【1-8】 人権啓発と教育活動を実践し、人間尊重社会の実現を目指します。【人権尊重】

施策別主要な事業	成果指標	平成27年度具体的取組内容・指標	総合評価	成果・課題
<p>(1) 人権啓発活動に関する取組みの充実 ○あらゆる機会を通じて、人権啓発活動を推進します。</p>				
<p>①国東市人権・同和教育啓発推進協議会の充実</p> <p>②行政区別人権学習会の行政区単位での開催</p>	<p>130行政区 130会場 参加者人数 2,600人</p>	<p>●国見地区 23行政区、23会場 ●国東地区 44行政区、46会場 ●武蔵地区 23行政区、20会場 ●安岐地区 40行政区、41会場 130行政区の各会場で、9月から翌年3月末の間、人権学習会を開催する。</p>	<p>A</p>	<p style="text-align: center;">人権・同和对策課</p> <p>●国見地区 23行政区 (23会場) ●国東地区 44行政区 (45会場) ●武蔵地区 23行政区 (20会場) ●安岐地区 40行政区 (42会場) 国東市内130行政区で学習会を開催し、参加者数は2,567人と目標値には及ばなかった。</p> <p>国見、武蔵、安岐地区は全ての地区で学習会の開催ができたが、国東地区においては、平成26年度に引き続き1地区開催ができなかった。平成28年度は全地区で開催できるよう各区长、人権担当者への確実な依頼が必要である。</p> <p>学習会の参加者は、高齢化、固定化しつつあり、参加者数も26年度比で90名増とはなりませんが、平成27年度に実施した「国東市人権意識調査」の結果で、人権に関する研修会に「参加したことがない」と答えた人が全体の37.1%でした。(県の平成25年度調査結果は47.1%)特に、最も多い30才代で48.4%となっている。「参加したことがない」人が、関心を持ち学習会に参加してもらえないような広報活動を積極的に行う必要がある。また、参加者から「学習会に来てよかった、また、来たい」と思われる学習会にするために、学習テーマ、内容、視聴覚教材等の工夫や見直しをしていくことも重要である。</p> <p>また、講師のフリアシリテーターとしての技量向上のために、これからも講師養成には一層、</p>

<p>力を入れる必要がある。 参加者の中には、「寝た子を起さずな論」、「学習会不要論」等の考え方を持っている人がまだいる。こういった差別を払拭し、同和問題をはじめ、あらゆる差別をなくすために、これからは地道な教育・啓発の推進が必要と考える。</p>	<p>下記のとおり、4会場で人権フェスティバルを開催した。 ●武蔵会場 12月 5日 500人 ●安岐会場 12月 6日 121人 ●国見会場 2月 6日 180人 ●国東会場 2月 20日 145人 内容としては各会場で異なるが、人権作品の展示、詩・作文の朗読発表、実践発表、講演会、人権コンサートなどを行った。 たくさんの人に参加していただくため広報、呼びかけを色々と工夫した結果、参加人数は981名と、平成26年度比107名の増加であったことは成果である。さらに多くの方に参加してもらえよう、内容を十分検討し、魅力ある大会になるよう努力する。</p>
<p>旧町単位の4会場で人権フェスティバルを開催する。 人権問題の早期解決と、人権が尊重される国東市実現に向けて様々な取り組みを進めており、その取組の一つとして、市内4会場で人権フェスティバルを開催し、市民一人ひとりが人権尊重のまちづくりに向けて実践的な意欲や態度の習得など、「学びの場」としている。</p>	<p>A</p>
<p>③人権フェスティバルの旧町単位での開催</p>	<p>B</p>
<p>④人権講演会や人権に関する企業訪問の実施</p>	<p>人権・同和对策課</p> <p>8月の「差別をなくす運動月間」、12月の「人権週間」に合わせて人権啓発チラシを作成し市内全戸に配布した。また、市報「くにさき」に人権に関する記事・コラム等を掲載し幅広い啓発活動を推進した。 市報「くにさき」については、各分室、人権・同和对策課、隣保館と月ごとに分担して記事を掲載した。内容については、テーマを決めて掲載したが、今後も内容の見直し、検討をしていく必要がある。 人権作品集については、各会場での人権フェスティバル開催に合わせて作成し、フェスティバルの参加者及び小中学校児童生徒に配布している。地区によっては全戸に配布したり、地区公民館等に配布して啓発に努めた。</p> <p>・8月「差別をなくす運動月間」、12月「人権週間」の人権チラシを作成し、各戸配布する。 ・市全体での人権教育・啓発の一年間の実践記録集を作成し、関係者に配布する。 ・市報「くにさき」に人権に関する記事・コラム等を掲載する。 ・人権フェスティバルに関連して、人権作品集を作成し参加者等に配布する。 ●国見地区 啓発資料「なかよし」市報9月号、12月号 ●国東地区 啓発資料「KOKORO」市報4月号、8月号</p>
<p>⑤人権問題や啓発活動等に関する広報・周知活動の促進</p>	<p>旧町単位の4会場で人権フェスティバルを開催する。 人権問題の早期解決と、人権が尊重される国東市実現に向けて様々な取り組みを進めており、その取組の一つとして、市内4会場で人権フェスティバルを開催し、市民一人ひとりが人権尊重のまちづくりに向けて実践的な意欲や態度の習得など、「学びの場」としている。</p>

<p>●武蔵地区 啓発資料「すくらむ」市報6月号、1月号 ●安岐地区 啓発資料「ひかり」市報5月号、11月号 ●人権・同和对策課、隣保館 市報7月号、10月号、2月号、3月号</p>	<p>人権・同和对策課</p>
<p>⑥隣保館を拠点とした「福祉と人権のまらづくり」活動の推進</p>	<p>○人権啓発・教育活動に関する取り組みの充実</p> <p>○人権啓発・教育活動を実践する人材を育成・派遣します。</p> <p>①人権活動に精通する人材の育成と指導者の資質向上の推進</p> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育研究委員会においては、様々な人権問題に対応するため、委員が自ら自主研究やワールドワークを行い、また、各種研修会、研究大会等に積極的に参加し自己研鑽に努める。 ・社会教育指導員、教育啓発担当者は、常日頃より、公益社団法人大分県人権教育研究協議会のリーダー研修会、大分県社会人権・同和教育推進協議会の実践交流会、各種研究大会、講演会等に積極的に参加する。また、くにさき地区人権同和教育協議会やその担当者で構成する『地同指の会』においては、講演会や各種研究大会の選流報告等を行い指導者としての資質の向上に努める。 <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動の中に人権学習会の機会を確保し、家庭と学校が連携した人権教育の推進を図る。市内の小中学校のPTA活動の一環として、人権講演会を開催し、講師の派遣をする。 ・企業・事業所や社会教育団体等に積極的に人権学習会の機会を確保し、講師を派遣する。
<p>(2) 人権教育活動に関する取り組みの充実</p>	<p>年間を通して、自主研究やワールドワーク、講演会を行った。</p> <p>また、各種研修会・研究大会、実践交流会に積極的に参加し、研究団体や他市町村と交流ができ、多くの取り組みの事例を学ぶことができた。</p> <p>これにより、指導者としての知識の向上と指導力の向上を図ることができ、これからの人権教育啓発の原動力となった。</p> <p>・27年度は、小中学校9校の人権講演会に講師を派遣した。それ以外の学校においては、自ら講師を選定し講演会を行ったり、独自の内容で学習会を行っている。</p> <p>市内全ての小中学校でPTA活動の一環として、人権学習会が定着し、学校、家庭が連携した人権教育の推進ができた。</p> <p>また、建設業組合、社会福祉協議会、市民病院、女性団体、公立保育協議会、農業委員会等の人権学習会に講師を派遣し、幅広い層への人権教育の推進ができた。さらに、それぞれの事業所、</p>

	<p>③啓発活動資料の作成や学習会教材・メニューの開発</p>	<p>教育研究委員会を開催し、4月から8月にかけて地区人権学習会の学習プログラム（教材（DVD）の選定、学習のテーママ、学習のねらい、進め方、時間配分等）を作成する。</p>	<p>A</p>	<p>団体等が自主的に人権学習会を実施できるよう、さらに啓発・推進をしていく必要がある。</p> <p>4月から8月にかけて地区人権学習会の学習プログラムの選定、学習活動案の作成をしてきた。その学習会に参加した人からは、「身近な人権を取り上げた学習内容で大変いい学習ができた。」「今年度の視聴覚教材DVD『私の好きなまち』はとても良かった。」などの意見があった。</p> <p>人権教育においては、差別をしてはいけない、差別を許さないというメッセージを届けると同時に、「学習して良かった、また参加したい」と思えるような学習の場を作ることが重要である。そのためには、市民の様々な興味や関心、生活要求を重視した学習教材・メニューの開発が不可欠である。</p> <p>翌年度から、教育研究委員会において、新しい教育教材づくりに着手する。</p>
<p>○あらゆる機会を通じて、人権教育活動を推進します。</p>	<p>①学校教育や社会教育における公民館等での「人権教育」の実施</p>	<p>公民館を拠点として、高齢者学級、女性学級など、それぞれの活動の一環として、人権学習会や講演会を開催している。また、公民館の人権講座として、「人権教育推進学級」（年4回）や「身になる人権講座」（年5回）を開催し、人権全般の課題についての学習活動を実施することにより、人権に対する正しい知識と差別意識の解消に努める。</p>	<p>B</p>	<p>これまで、公民館などの社会教育施設等の人権教育の拠点として、学級や講座等の公民館活動に人権に関する学習会を設け、人権問題解決にむけた教育を推進してきたが、今後は、PTA、老人クラブ、女性団体等の地域の関係団体が公民館を利用し、人権教育を積極的に推進するよう支援すると共に、学習者が主体的に取り組めるような内容や方法を工夫する必要がある。</p>
<p>②市内小学校による「人権の花」運動の実施</p>			<p style="text-align: center; border: 1px solid black;">人権・同和对策課</p>	
	<p>③中学生人権コンサートや中学生福祉体験学習の開催</p>		<p>B</p>	<p>・中学校の人権教育の一環として、輪番性により人権コンサートを開催し、音楽を通じて生徒の人権感覚を育成する。</p> <p>・中学生が福祉施設等で参加型体験学習をすることで、人権教育で大切な</p>
				<p>・平成27年度は武蔵中学校で開催され、生徒たちはこのコンサートで、平和・環境・人権をみんな考えて、行動に移すことの大切さ、そんな生き方を積み重ねることが大事であるということを学び、感じ取ったのではないかと考える。</p> <p>平成28年度は国見中学校で「願児我楽夢」を招いて人権コンサートを実施する。</p>

		<p>「気づき」を見出し、考え、実践する力を身に付ける。</p>	<p>・例年、武蔵中学校1年生が「大分県社会福祉介護センター」を訪問し、参加型体験学習をしている。生徒たちは、施設で介護の疑似体験をする中で、高齢者、障がい者の身体的状態と気持ちを理解し、介護の重要性を知ることができた。今後、他者とのかわりを通して、共に協力し合っていくことの重大性を感じ、自分の将来を見通した職業観の育成ができるよう、参加型体験学習を計画・実施していく必要がある。</p>
--	--	----------------------------------	---

5 点検及び評価の結果に対する総括的意見

(1) 教育環境整備について

・統合の検討が進んでいる中、廃校になった学校が地域の拠点であり続けるよう、水曜日の放課後に実施している学びの教室（放課後チャレンジ教室）に活用している所もあるが、地域の先進的な活用方法等がイメージできない。

(2) 学校教育について

・小規模校では、子どもたちの指導に目が行き届くという利点がある。しかし、もう少し多く児童がいる方が集団としての学び合いが出来るということがある。学校行事についても同じである。小規模校の校区に住んでいながら他の校区に通う子どももかなりいる。地域に学校がある意義をよく理解してもらい、子どもたちを地域の学校に通わせるよう働きかけをしてもらいたい。

・市内に住んでいるが支援学校のある他の市に通学している子どももいる。障がいがあり、市内の学校を希望する場合は、受入れが出来る体制作りを引き続きお願いしたい。

・夏休みに1学期にやった練習問題の再プリントが宿題として出ている学校がある。一律で過剰な宿題が勉強嫌いを作らないか心配される。夏休みならではの自由研究や実験・観察、あるいは読書といった奥の深い学習に時間をとりにくくなっているように感じる。学力向上にはどういうことが必要なのか、宿題の出身・量について、検討・精査をお願いしたい。

・II-3、(3)で今日的課題となっている「いじめ」について項目の追加をお願いしたい。

・小学校へ歌舞伎を教えに行っているが、毎年、人数に関係なく落ち着きのないクラスがある。目標共同達成で学校・家庭・地域の3者が一体となって進めて行っているが、今は学校からお願いする形になっているので、家庭・地域が主体となって、自ら考えて自立して取り組んでいけるよう働きかけをお願いしたい。

・現在、特別支援教育支援員は免許がなくてもなれる。経験を積まれた方がいい人材になるので、実力向上のため年に3回、講師を招いたり指導主事が講師となり研修会をしているが、継続していただきたい。福祉の観点からも合理的配慮を視点とした研修をお願いしたい。

(3) 社会教育について

- ・放課後チャレンジ教室の取り組みは、学力向上に成果が見られる。継続的な活動の推進を図っていただくとともに、広報媒体を通して活動をPRしていただきたい。
 - ・目標を達成しているので、成人式の総合評価を「B」から「A」にすべきです。
 - ・社会教育の拠点が公民館活動なので、今後も継続して推進していただきたい。
 - ・II-5、(6)の「ニュースポーツの検討」については、検討は終わっているので、来年からは「ニュースポーツの推進」に変更すべきである。
 - ・人権学習会は職場や行政区ごとに開催し、広く浸透して行っている。今後も粘り強く学習会を継続していただきたい。
 - ・地区別人権学習会では参加者が固定化しつつある。学習会の持ち方について検討していただきたい。
 - ・図書館は施設・蔵書数・使い方のマナーと素晴らしいが、利用者が少ないように感じる。ブックスタート事業、お話し会等意欲的に取り組んでいる。現在、図書館利用のない人にも広く浸透して行ってほしい。
- (4) 全体を通して
- ・「評価と課題」の中で、「今後、検討する必要がある」という記述が多く見受けられる。去年も一昨年も同じ表現だと「検討していない」と受け取られるので、難しいからこのような表現になっているのかもしれないが、どういう風に検討したということが分かるようにしていただきたい。
 - ・「成果指標」にできるだけ、数字か文字を入れていただきたい。